

冬のこどもの病気について

院長補佐(兼)小児科 主任科部長 米谷 昌彦

冬になって気温が下がり空気が乾燥するようになると、さまざまなウイルス感染症が流行します。

RSウイルス感染症やインフルエンザ、またノロウイルスやロタウイルスによる胃腸炎などが流行します。インフルエンザ以外のウイルスにはウイルスを退治する薬はなく、罹ってしまうと対症療法のみとなります。そのため、感染を予防することが大切です。RSウイルスやインフルエンザウイルスは主に飛沫(くしゃみや咳など)や接触により感染します。**乳幼児では家族からの感染も多いので、外出時のマスク、帰宅時の手洗い、うがいをお勧めします。**ノロやロタウイルスは汚染した食品や患者の吐物や便に含まれ、接触感染、経口感染が主になります。帰宅後やトイレの後、調理や食事の前には、十分に手洗いをしましょう。ロタウイルスはワクチンによって重症になるのを約90%防ぐことができるとされていますが、乳児期早期のうちに接種しておく必要があります。



お子様の症状で不安があるときは下記の電話相談窓口でアドバイスが受けられます。

東播磨圏域小児救急医療夜間電話相談窓口

相談時間: 毎日午後8時30分から午後11時30分

電話番号 **078-937-4199**
(相談料無料 通話料利用者負担)

兵庫県子ども医療電話相談

相談時間: 平日・土曜日: 午後6時～翌日午前8時
日曜日及び年末年始: 午前8時～翌日午前8時

電話番号 **#8000** または
078-304-8899



健康教室のご案内(2019年1月19日土曜日)

健康教室を毎月第3土曜日に開催しています。各テーマ毎に当院の医師、医療職員が解説します。今月は、歯科口腔外科のお口の健康についてです。

日 時: 1月19日(土) 14:00～15:00
場 所: 光(きらり)ホール
講 師: 歯科口腔外科 主任科部長 橋 進彰 医師
タイトル: 「健口から健康へ
～お口の健康が全身の健康へ～」

アンケートにご協力をお願いします。

本広報誌「つつじ」およびホームページについてのアンケートにご協力をお願いいたします。



重要なお知らせ

広報かこがわ12月号 9頁に掲載された「年末年始の施設カレンダー」に誤りがございました。お詫び申し上げます。

	<誤>	<正>
日付	1/5 (土)	1/5 (土)
中央市民病院	○	×

1月5日(土)は「休診日」です。

加古川中央市民病院で一緒に働きませんか?

●医療スタッフ

- ・薬剤師
- ・臨床工学技士
- ・歯科衛生士
- ・看護補助
- ・作業補助

●事務スタッフ

- ・医師事務作業補助者【MA】
- ・病棟クラーク
- ・予約受付事務
- ・医療事務
- ・ポーター
- ・事務補助※外来、事務部門 等

の募集をしています。

詳しくはホームページをご覧ください。
(資格・経験不問の職種もあります。)

加古川中央市民病院 採用情報

検索



かかりつけのお医者さんにご相談を

体調に不安があり、治療についてもっと詳しく相談したいなどの場合は、まずはかかりつけの先生にご相談ください。当院では、かかりつけの先生としっかり医療連携を行い皆さんの健康を支えます。

かかりつけ医



強い医療連携



加古川中央市民病院



地方独立行政法人 加古川市民病院機構
加古川中央市民病院

〒675-8611 兵庫県加古川市加古川町本町439番地
TEL: 079-451-5500(代表)
http://www.kakohp.jp/

受付時間
診療受付時間…(月～金)
8:00～11:00
診療時間…(月～金)
8:45～17:00
休 診 日…土曜日・日曜日・祝祭日
年末年始12月29日～1月3日



加古川市民病院機構から地域の皆さまへ



特集

小児医療

～いのちの誕生から～

「いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます」が当院の理念です。小児医療は、まさに「いのちの誕生から成人に至るまで」、こどもの成長に寄り添った継続的な医療です。

さまざまな病気からこどもを守るには、小児科のみならず、小児外科、形成外科、整形外科、心臓血管外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科など小児に関わるさまざまな診療科が連携して対応できることが大切です。また大人になったときには内科など成人診療科への移行が必要となる場合もあります。当院では、複数の診療科や多職種にわたるスタッフが協働して、地域ともしっかりと連携をはかりながら、こどもたちによりよい医療が提供できるように努めています。



院長補佐(兼)小児科
主任科部長
米谷 昌彦



加古川市民病院機構



新生児医療は

小児科 科部長 森沢 猛

地域周産期母子医療センターに指定され、東播磨および北播磨地域における新生児医療の基幹病院として機能しています。

在胎37週未満、出生体重2500g未満の早産低出生体重児だけでなく、新生児の呼吸障害、感染症、消化器疾患、先天性心疾患、小児外科、口腔外科、脳神経外科疾患、染色体異常や多発奇形など**ほぼあらゆる疾患の診療を複数科との連携を通して行っています。**

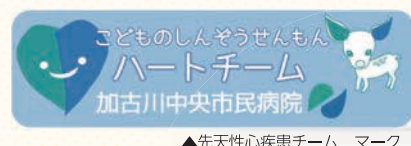
新生児搬送専用救急車にて地域の周産期施設でのリスクの高い分娩への立ち会いや、病的新生児の搬送も行っています。



先天性心疾患医療は

左 心臓血管外科 科部長 圓尾 文子
右 小児科 医長 佐藤 有美

小児科、心臓血管外科が行っています。約100人に1人の赤ちゃんは生まれつき心臓の病気をもって生まれます。当院ではお子さんの心疾患の診断から手術などの治療を行っております。乳児健診や学校心臓検診の精査や、妊娠中の胎児エコー診断に、常時対応しています。大人に向けての移行期外来もあり、**生まれる前から大人になってもずーっと関わっていただけるのが私たちチームの自慢です。**



▲先天性心疾患チーム マーク



形成外科とは

形成外科 主任医長 岩谷 博篤

体の表面、つまり目に見えるところの様々な病気を治療する診療科です。小児に関わる分野では、ケガや生まれつきの変形などに対し、診療を行っています。

具体的には、やけど、顔や体のケガ、こうしんこうがいれつ口唇口蓋裂・手足の変形・目や耳の変形・こうしんこうがいれつでべそ等の生まれつきの変形、あざ、できもの、ケロイドといったものです。

こうしんこうがいれつ口唇口蓋裂については、形成外科を中心に、生まれた時から大人になるまで、健常な子供たちと同じように成長できるよう、関連する部署と連携して治療を行っています。

お困りのことがありましたら、かかりつけ医にご相談の上、当院を受診してください。



小児移行期医療とは

小児科 科部長(兼)移行期医療調整室長 西山 敦史

医学の進歩により、持病をお持ちであっても生活指導や薬物療法などで比較的安定した状態で成人を迎えるお子さまが増えてきました。年齢が高くなると生活習慣病や成人特有の病気など小児科では対応できないことも増え、また成人になれば病状の説明や意思決定もご両親から本人に代わります。

成人の患者さんが多く、移行が比較的スムーズな病気(糖尿病や慢性腎炎など)もあれば、小児科でも専門家は少なく、内科の先生もほとんど知らない病気まで様々です。**お子さまひとりひとりに合ったスムーズな成人科への移行を支援いたします。**

小児医療

～いのちの誕生から～



小児外科では

小児外科 主任科部長 安福 正男

生まれたばかりの赤ちゃんの食道、腸、肛門が閉鎖しているなどといった新生児の手術から、きず尿管ヘルニアや虫垂炎をはじめとして、胃腸や胆道、そして気管、胸壁、肺、さらに停留精巣、包茎など、主に中学3年生ぐらいまでのお子さんの手術を行っています。

年間300件ぐらいの手術になりますが、そのうち3分の1ぐらいに内視鏡外科手術を行っています。創も小さく体の負担が少なく済むので、入院期間も短くなります。また、小児科の先生が取り組む移行期の医療にも加わり、重症心身障がい児・者の生活の質を改善する手術なども行ってきました。

小児科の先生達と協力して、お子さんの手術を安全に行えるように心がけてゆきます。



小児の脳神経外科って?

脳神経外科 主任科部長 山元 一樹

と疑問に思われる方も多いかもしれません。

小児における脳神経外科は脳血管障害や脳腫瘍などと同じように独立した専門分野で、発達途上にあるこどもの中枢神経系の外科的異常を扱います。

対象疾患は二分脊椎や頭蓋縫合早期癒合症、にぶんせきつくも膜のう胞などの先天性の疾患、水頭症、もやもや病などの他多岐にわたります。

その特殊性から病態理解や治療に大人とは違った専門知識を要しますが、当院では小児科と良好な連携をとりながら治療を行っています。

お子様の頭や脊髄の事で気になるような事がありましたら是非ご相談下さい。



小児在宅医療では

小児科 科部長(兼)在宅医療支援室長 親里 嘉展

いろいろ胃瘻、酸素、気管切開、人工呼吸器…。

病院で行うこのような医療行為を家庭で両親やご家族が行われている子どもたちがいることをご存知ですか？

在宅医療は高齢者だけではありません。いろんな疾患、いろんな状態の子どもたち・ご家族が在宅医療を行いながら生活しています。当院では、疾患に対する治療はもちろんですが、このような**在宅医療を行っている子どもや家庭への支援**も行っています。

最近では若干名ではありますが、**入院病床を用いた短期入所事業**も始めました。小児の在宅医療を地域で支援できるように今後取り組みでいきます。